

おはようございます。

教室から見える桜がとてもきれいだと思います。新しい季節の始まりを知らせ、そして、一年間のみなさんの頑張りを讃えるように満開となりました。

コロナ渦に翻弄され、時が止まったように感じられるときもありますが、時は確実に流れ、季節は必ず巡る。この当たり前のことを改めて教えてくれているような気がしています。

3月12日の卒業式、在校生は参加できませんでしたが、皆さんの心のこもった準備のおかげで、感動的でとても立派な式になりました。

また、卒業式に先立つ予餞会では在校生からたくさんの笑いを卒業生にプレゼント。
素敵なパフォーマンスから、みなさんの祝福の気持ちを感じ取り、3年生は惜しみない拍手を送っていました。

こんな上級生、下級生がいるからこそ、大変な一年だったけど、この一年、温かい雰囲気の中で活気あふれる学校生活が繰り広げられました。

1年間を通して、みなさんは、本当によく頑張ったと思います。

さて、今日で令和2年度も終了します。皆さんにとって、この一年間はどうかだったでしょうか。

この一年間を振り返ってみて、そしてこれから新しい1年が始まろうとしている今のみなさんに、私がこれまでに学んだ大切だなと思うことを三つお話します。三つだけです。

一つ目は、点と点を結ぶということです。

1年間を振り返ってみると、うまくいくときも、うまくいかないときも、うれしいときも、かなしいときも、悔しいときも、人によっては、まさかこんなことがおこるとは、と思うことがあったかもしれません。

そして、これから始まろうとする新年度にもそういったことが起こるでしょう。

でも、それらはすべて、通過点。すべてには「とき」があるということです。

一見バラバラに見える点であっても、後になって振り返ってみると、それは明らかで、実はつながっているのです。未来の自分につながっているのです。それを信じて、今を大切に生きるということです。

そして、もうひとつ信じてほしいことがあります。それは何か。

それは、自分の心の声です。

それが、二つ目の「自分の心の声に耳を傾け、その声に素直に従ってみよう」ということです。

「あこがれ」を胸に抱くといってもいいかもしれません。自分の心の声に耳を傾けてみよう、耳を澄まして聴いてみよう、本当は知っているはずですが、なりたい自分の姿を。自分はこうしたい、こうありたいという、自分だけの「あこがれ」です。

例えば、「将来こんな職業につきたい」「こんな人になりたい」「医療関係の仕事について人の役に立ちたい」どんな小さなことでもいい。あこがれがあるから人は頑張れる。生きる力の源だ。あこがれを常に胸に抱こう。自分の心の声に耳を傾け、素直に従ってみよう。

そして最後、三つ目は「自分について」です。「自分は何者かを知る」といってもいいかもしれません。

みなさんは学校を卒業すれば、社会人となり、いずれは仕事を持つようになります。

仕事は生活をする上で大きなウエイトを含めるようになります。

社会人になったとき、豊かな生活を送るために大切なことはただ一つ。それは、自分の仕事を愛せることができるかどうかということです。

例えば、今、目の前にいる担任の先生、「みんなのことが大好きです。ときに厳しく、ときに優しく、みんなと一緒にあって、喜んだり、悔しがったり、みなさんの成長を信じ、そして、みなさんがその期待に応えてくれるから、毎日、忙しいけど、仕事をとおして、やりがいを感じています。それはなぜか。

それは、「教師」という仕事を愛しているからです。

仕事を愛せるかどうかということが、社会人になったときにとても大切です。

毎日勉強しているのは、そういう自分を見つけるためといっても過言ではありません。自分の仕事を愛せる人になれるように、自分のことを見つめて、これからずっと学び続けてほしいとおもいます。

「点と点を結ぶ、自分の心の声に耳を傾け素直に従う、そして、自分について知る」
3つの事を話しました。

最後に、明日から4月4日まで、春休みになります。事故や事件に巻き込まれることがないように、また、4月からよいスタートが切れるよう、有意義に生活をしてください。

皆さんと次に会うのは30日です。全員が元気に登校してきてください。一年間、おつかれさまでした。